

令和 7 (2025) 年 10 月 21 日

保護者の皆様

札幌市立平岸中学校
校長 須藤 勝也

令和 7 (2025) 年度 全国学力・学習状況調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に温かい御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年 4 月に実施されました標記の調査につきまして、文部科学省から届いた調査結果をもとに、本校において、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために分析を進めてまいりました。このほど、分析結果がまとまりましたので、その概要について別紙の通り保護者の皆様にお知らせするとともに、学校ホームページにも掲載いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 調査の概要

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

（１）調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ③ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

（２）調査の対象

国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年 原則として全児童生徒

（３）調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、数学、理科）
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査（アンケート）
 - ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（４）調査実施日

令和 7 (2025) 年 4 月 15 日 (火) 質問調査、理科
令和 7 (2025) 年 4 月 17 日 (木) 国語、数学

2 「教科に関する調査」結果

【中学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

「言葉の特徴や使い方に関する事項」
△ 全国平均を上回っている。

「話すこと・聞くこと」
◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」
◆ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」
◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

課題

● 事象や行為を表す語彙について理解すること。

● 相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。

● 自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くこと。

● 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

改善の方向

○ 新しく出会った言葉について調べたことを記録したり、その語彙を話や文章の中で使ったりする活動の充実。

○ 聞き手の反応を踏まえて話の受け止め方や理解の状況を捉え、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す活動の充実。

○ 文学的文章を読み、考えたことなどを伝え合ったり、文章にしたりする活動の充実。

○ 関心のある事柄について整理したり、情報を編集して文章にまとめたり等、自分の考えを整理して書く活動の充実。

〈記号の意味〉		
△	上回っている	+3.1 以上
◇	ほぼ同程度	やや上回っている + 3 ポイント以内
◆		やや下回っている - 3 ポイント以内
▼	下回っている	- 3.1 以上

本校の概要

「数と式」

◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「関数」

△ 全国平均より上回っている。

「データの活用」

◇ 全国平均より上回っている。

課題

● 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげること。

● 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価改善することができること。

● 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができること。

● 必ず起こる事柄の確率について理解していること。

改善の方向

○ 文字を用いた式に一般化する際に、目的に応じて必要な条件を設定し、数量の関係を数学的に表現できるような指導を充実させる。結果について、正しいかどうかの振り返る活動や成立させるための条件を工夫する活動を取り入れるようにする。

○ ある事柄が成り立つことを直感的に理解するとともに、筋道を立てた論理的な説明を数学的な表現を適切に用いてできるように反復練習を充実させる。

○ 日常生活や社会事象から、ともなって変わる2つの変数の関係について注目する活動を充実させる。また、式・表・グラフで表現して変化の様子や対応などについて読み取る活動を充実させる。

○ 確率や代表値、箱ひげ図等、データをまとめる上で適切な方法を選択できるように話し合い活動を充実させる。また、ICTを活用しながらデータの傾向を判断し、その理由を数学的な用語を用いて説明する活動を充実させる。

〈記号の意味〉		
△	上回っている	+3.1 以上
◇	ほぼ同程度	やや上回っている + 3 ポイント以内
◆		やや下回っている - 3 ポイント以内
▼	下回っている	- 3.1 以上

課題

「エネルギー」を柱とする領域
基礎的な知識をもとにして身近な事象についての考察を行えること。

「粒子」を柱とする領域
気体の性質に関する基礎的な知識を身につけ、それをもとに考察すること。

「生命」を柱とする領域
小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈すること。

改善の方向

- 章や単元の導入で身近な疑問を提起し、学習を終えたのちにそれらの疑問について考えたり、情報交換を行ったりする学習活動の充実。
- 密度や濃度など、基準を設けた単位についての考え方をイメージしやすくするための教材研究や学習活動の充実。
- 体の構造の特徴について、既習事項と関連付けて考察する学習活動の充実。

3 「生活習慣や学習環境等に関する質問調査」結果

調査結果の中から、本校の3つの「求める生徒像」と特に関連の深い設問を取り上げています。また、全国と比較して差異の大きい質問をとりあげています。

（1）自ら学び、より良く問題を解決できる生徒

- ・ 学ぶ意欲を持ち、目標に向かって努力することができる
- ・ 深く考え、より良い判断をすることができる
- ・ 何事にも積極的に取り組み、自分を表現することができる

本校の課題

全国と比較して「肯定的な回答の少ないもの」

- ・ 「1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」59.6%
- ・ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」67.8%
- ・ 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」68.9%
- ・ 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深め得たり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」80.7%
- ・ 「1, 2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」66.9%
- ・ 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか」74.4%
- ・ 「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか」55.1%

改善の方向

- ・ 課題解決的な学習を充実させ、自分で考えようとしたり、各教科の学習と結びつけて自分の考えをまとめようとしたりする姿勢を育てていく授業展開を工夫していきます。
- ・ 自分の学びの伸びを実感できるよう、単元や題材ごとの振り返りの場面を大切にし、他教科との関連や小学校の既習事項との関連を図りながらの授業構築を心がけていきます。
- ・ 本校の大きな課題の一つとしてICTの有効的な活用があげられておりましたが、学年によって取組に差があるようです。各教科はもちろん、道徳や総合的な学習の時間、生徒会活動等、多面的に活用できるよう、今後も研修を積んでいきます。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」 95.5%
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」 84.4%
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」 80.7%

本校の良い特徴の一つとして、学級活動の充実があります。全国平均と比較して、大幅に上回っております。深く考え、目標に向かって努力したり、自分を表現したりできるよう、今後も学級での話し合い活動を大切に参ります。

（２）豊かな人間性と社会性を身につけている生徒

- ・ 礼儀や規律をわきまえ、行動することができる
- ・ 温かい心を持ち、人や自然と接することができる
- ・ 心豊かに、しなやかな感性を磨き合うことができる

本校の課題

全国と比較して「肯定的な回答の少ないもの」

- ・ 「将来の夢や目標を持っていますか」は肯定的回答が61.4%であり、全国と比較してもやや少なかった。



改善の方向

キャリア教育の更なる充実が本校の課題の一つと思われます。3年生は今後の進路実現のみならず、自己の良さを生かした将来設計を描けるよう、個々に応じた的確なアドバイス心を心がけて参ります。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」 92.7%
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 97.2%
- 「友達関係に満足していますか」 95.4%
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」 90.8%

良好な友達関係を築いている様子が窺われます。上記項目は、いずれも全国平均と比較して、大幅に上回っており、心の安定を感じます。校内の行事や活動はもちろん、地域社会・家庭とのつながりを大切にしながら、自己有用感を高める取組を更に充実させていきたいと思っております。

(3) 命を愛し、健康でたくましく生きる生徒

- ・ 明朗で、健康な心身を持ちながら鍛え合うことができる
- ・ まわりの人々や社会の幸福・発展のために尽くすことができる
- ・ 生命を尊重し、謙虚で感謝の気持ちを持つことができる

本校の課題

全国と比較して「肯定的な回答の少ないもの」

- ・ 「朝食を毎日食べていますか」 82.5%
- ・ 「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」 24.8%

改善の方向

朝食をとる割合は全国平均よりかなり低い数値となっております。ご家庭のご協力をお願いいたします。

「小中一貫した教育」や「地域とのつながり」を今後一層充実していく予定です。ご家庭、学校、地域の連携を深められるよう努力していきます。

今後も大切にしたい特徴

全国と比較して「肯定的な回答の多いもの」

- 「自分には、よいところがあると思いますか」 94.5%
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」 88.1%
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」 97.2%

「自分には、よいところがある」の質問に対しては、昨年度に引き続き肯定的な回答が高くなっております。ご家庭でしっかりお子様を受け止めていただけていることに起因する部分が大いにあるかと思えます。「困りごとや不安がある時に、大人にいつでも相談できる」の質問への肯定的回答も多く、今後も一層、担任、学年所属副担任、S C、相談支援パートナー等、様々な立場から個々の生徒の特性に合わせた支援を行っていききたいと思います。

4 最後に今年度の「学力・学習状況調査」について

- ◇ この結果を踏まえ、生徒の声を聞きながら、より一層生徒に寄り添った形の学習活動を展開することにより学力の向上に努めていきたいと思えます。本校では、今後も機会あるごとに保護者の皆様にご取組の趣旨を説明し、理解を深めていただけるように努力してまいります。各ご家庭におかれましてもご協力をよろしくお願いいたします。

この調査結果に関するお問い合わせは（平岸中学校 Tel 811-9585）まで